

「くまもと戦争遺産の旅」アンケート集約：全体

※（）内は、文意から事務局で言葉を補足してあります。平成30年9月15日版

1 20代・女性

本日のツアーの様に、戦争（遺跡を通して）体験できるような学習法だと、今以上にもっと沢山の人が興味を持ち、深く知りたいと思うと感じました。この体験型学習は、次世代に伝えていく方法として、すごく良いと思いました。

今日、戦争遺跡をたくさん見学ができたが、当時のものをそのまま残しているのには深い理由があり、そこから私達は戦争に関して、もっと勉強する必要があると感じました。今日のツアーに参加し、やはり戦争はするものではないと感じました。昔の人が今の時代の、この平和を創り上げてくれたのだと思います。この平和を大切にしようと思いました。

2 20代・女性

10代及び20代の若者参加者が少なく残念でした。戦争体験の話と戦争遺跡を見ることができ良かったと思います。意外と身近なものだったことにびっくりしました。勉強になりました。次の「くまもと戦争遺産の旅」では、昼食の時間がゆっくりあったほうが良いと思いました。また、戦争体験談については、内容の資料がほしかったと思いました。本日一日お世話になり、ありがとうございました。平和が続くように、次世代への継承を（私たちも）頑張ります。

3 70代・女性

（国民学校）低学年の時に終戦。田舎でも枕元には、衣服とともに防空頭巾を置く習慣がついていた。電灯には黒いカバーをつけ、サイレンが鳴ると、防空壕へ。（国防・大日本）婦人会では、米軍の鹿児島上陸に向けて、竹槍訓練をしていた終戦直前の思い出がある。熊本で（これからも）この様に戦争遺跡を保存して、戦争を知らない世代に伝える、貴重な学べる資料として保存する努力が必要だと感じた。調査・保存に努力されている皆さん方に深く感謝します。

4 50代・男性

戦後生まれの私は、父母や祖父母からも、戦争体験を聞くことは、あまり機会がありませんでした。それでも修学旅行で小学校では長崎へ、中学校では広島を訪れ、原爆の悲惨さ、憤りを脳裏に焼き付けています。ただ、今回のツアーに参加しても、戦跡は身近なところにあること、それを守っていく事が難しくなっている事を知りました。県内各地の戦跡をネットワークすることで守り、（私達自身が）次世代につなぐ責任を感じています。

5 40代・女性

この（旅企画が）8月に開催されることに意義を感じています。現地にいき、そこで空気を吸うこと、その当時のお話を聞くことが、今回の旅で、最も価値のあることだと思います。ただ、その後は（戦争に関わる）自分の家族の歴史を知っていく作業が必要であると思いました。現在、若い10代の人たちと共に生活する職についています。今回の旅のこと、自分のこと、家族のことを語っていきたいと思っています。アジアから来ている若者の話や意見交換から、これから自分は何をすべきなのかを考えていきたいと思っています。今回、貴重な機会をあたえていただいたこと、全ての関係者の方々に感謝申し上げます。

6 40代・女性

戦争を語る人が少なくなっていく中で、どうやって繋げていくのか、そのことを考えさせられました。戦争体験、戦争史跡、平和の継承、全てがリンクしていると想いますが、もしツアーをするならば、どれか一つとしたほうが良いと想いました。ご年配の（スタッフ）の皆様方が、訪問先を先回りして、準備くださっているのを見て、頭がさがりました。直接お礼を言っておりません。よろしくお伝え下さい。ありがとうございました。

7 50代・女性

語り部の方の生々しい（戦争）証言がとても心に残った。当時の状況が、いきいきと伝わり感動した。これから若い方にも、是非関心を持っていただき、次世代につなげていければと思う。

8 30代・女性

戦争遺跡を実際に訪れ、戦争体験者の生の声を聞くことができ、とても学ぶものがありました。ほとんど知らないことだらけで、驚きが多くありました。ありがとうございます。まずは身近な人から（この見学会の事などを）伝えていきたいと思ひます。

9 60代・女性

職場で高齢の方々と接する事が多く、（この方々には）余生を穏やかに楽しく過ごしていただきたいと思っています。そんな中、戦争体験者のお話を聞くことは殆どなく、ずっと胸に秘められておられるのだらうと思うと心が重くなります。無理にお聞きすることはありませんが、話していただく際、きちんと受け止める事ができるよう、自分自身が積極的に知る努力をしようと、このツアーに参加させていただきました。今回の経験を、家族や周囲につたえ、また継続して学んでいきたいと思ひます。お話を聞かせていただきました橋本さん、前田さん、倉沢さん、本当にありがとうございました。伝える勇気と熱意に敬意を表します。

10 60代・女性

親から戦争の話を書くことはとあまりなかった。また、両親も熊本出身者ではないので、熊本の戦争について全く知らないと言ってよい状況であった。身近なところに、今まで行ったことのある場所に、この様なたくさんの戦争遺産があったことに驚いた。子ども達とも平和や戦争についての話題を出すことが殆どないことを、自分自身反省した。

11 70代・女性

戦争を知らない者が多く、平和のありがたさを知らない若者に、この様な旅はとてゝありがたく思ひます。これからも、この様な企画を若者向けに沢山やってほしいと思ひます。注文として、話が聞きにくい事が多くあり、とてゝ残念に思ひました。マイクの調整をしっかりとってください。

12 60代・女性

（熊本学園大学の第2体育館の）戦争遺跡を利用している学生達が、遺跡に対してどれほど認識しているか。できれば平和の継承として、学習できる場があればいいなと思ひた。黒石原飛行場での橋本様のお話には、感動しました。若い人達には是非聞いてほしい。甥や姪をつれてくれば良かった。

13 60代・女性

今も世界で戦争がおきています。日本がその戦争に巻き込まれないためにも、戦争遺跡を後世に残し、（戦争遺跡を通して）絶対に戦争をおこしてはならないと、伝えていくべきだとつくづく思ひました。特に若い人には伝えていくべきでしょう。

14 60代・女性

旅のよろこび様。猛暑でしたので、その場面、その時間で色々ご配慮いただき、よい旅をすることができました。ありがとうございます。とてゝ充実した一日でした。戦争遺跡を通して、戦争体験者のお話で、戦争を身近に感じました。熊本の（戦争の）ことを知ることができ良かったです。

15 75歳代・男性

（私は）戦後の日本で「平和の中」で暮らしてきました。自由主義体制の一員として、現在の民主主義の力を維持するためには、どうしても隣国に対抗しうる防衛力を保持すべきと思ひます。もちろん、現日本国憲法の骨格をくずしてはいけません。

日本国は資源エネルギー不足が将来厳しい状況になり、またA B C Dラインに取り囲ま

れると思います。燃料用エネルギーには、石油や核燃料に代わって、地熱エネルギーを使ってほしいと思います。化学変換用エネルギーには、中深海メタネードの利用研究促進を切にお願いします。

16 60代・男性

他の人吉や天草の（戦争遺跡や）施設の訪問も企画してほしい。春・秋にしてほしい。私の祖父は、戦争中に「負ける戦をしちやならん」とあちこちで、堂々と言って（憲兵に）捕まえられた。また、大学の時の、英語の先生はイ号400潜水艦の乗組員で、授業中必ず当時の話しをして下さいました。

17 70代・女性

全ての学びは、実体験により自らの力になると思います。戦争という言葉からは、その理解はむずかしく、戦争遺跡から学ぶ、または体験者の実体験を聞くなどして（戦争の実相を学ぶことが、今回の）貴重な学びであると実感しました。

18 60代・男性

当時のことに思いをめぐらすと、気持ちが重くなります。しかし、勉強して平和のありがたさを、子や孫に伝えていきたいです。

19 70代・女性

10年待ちに待った孫が生まれました。その孫がやがて大人になった時、果たして平和でいられるか？ 今の平和も薄い紙がすぐ破れてもおかしくない雰囲気なので心配です。

20 80代・女性

個人でも伝えるべき事はつたえること。戦中・戦後を体験しているからこそ、身近な人に直接改憲反対（と伝えたい）。

21 70代・女性

良い企画でした。参加価値がありました。

22 60代・女性

保存の難しさ。記録の大切さ。祖父母が孫に伝えること。

23 50代・女性

引き続き開催してほしい。体験談を聞く機会は貴重だった。

24 60代・女性

熊本にこのような戦争遺跡があることを初めて知りました。貴重なツアーに参加できよかったです。

25 70代・女性

遺跡の維持・管理が難しくなっていると思った。年月とともに関心がなくなっている。

26 70代・女性

戦争にならない様、ともかく話し合っしてほしいです。

平成30年(2018年) 8月15日 水曜日 熊本 本日 乗片 見沢

おんごの目

炎暑の一日、妹を誘って県内の戦争遺産を巡るバスツアーに参加した。顔触れは、戦争遺産を保存し平和を考えるため活動しているいくつものグループや研究者など高い志を持った方々だ。いつもの旅とは違って、静かに見学し折りをさげようと思っていたが、テーマの重たさに戸惑いと後ろめたさを感じた。

訪れたのは、熊本市内の陸軍歩兵第13連隊の正門と食堂をはじめ、菊池市にある慰霊碑や飛行場跡に残る巨大な給水塔、油倉庫、格納庫の基礎。焼き尽くされたそうなの炎天下に立つこれらの遺物たちの沈黙の重さ

音読のすすめ 沈黙の語り部たち 荒木仁子(89)主婦、宇土市

に圧倒された。戦争の記憶、犠牲者への悼み、平和への感謝は持ち続けているが、あれから73年。どっぴり、今に浸っている自分にあらためて気づかされた。

菊池飛行場ミニシアムの片隅で、「飛龍」の二文字が目に見え込んできた。それは県内から動員された中学生、女学生の仲間と造った飛行機の名前。敵地の飛行場に着陸して敵機を爆破する命を誓った若者たちを運んだとのこと。この名はまた、工場であった合同卒業式を襲った空襲、逃げ惑う私たちへの機銃掃射の呪いたを思い出させられた。当時、すっかり姿を消していたさやかなお栗子が、出撃する若者たちに振る舞われたという記事が悲しかった。

「くまもと戦争遺産の旅」聞き取り



名前 ()
性別 (男・女) 年代 () 代
敗戦時年齢他 ()



戦争体験	戦争の記憶	銃後の暮らし	子ども時代
加害	被害 (空襲)	戦後の復興	
戦争遺跡	平和の継承	平和活動	次世代等

何を伝えたいか ()



「くまもと戦争遺産の旅」への
ご参加ありがとうございました。



ピースくまもと設立準備会事務局
性別（男・女） 年代（ ）代



ご参加での感想を自由にお寄せ下さい！
キーワード 戦争体験・戦争遺跡・平和の継承・次世代等

A large rectangular area with a red border and green oval corners, containing horizontal dashed lines for writing.

